

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月30日

上場会社名 株式会社 クレオ

上場取引所 東

コード番号 9698 URL <http://www.creo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 森太郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理室長 (氏名) 土屋 淳一

TEL 03-5769-3640

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	8,057	0.7	225	76.8	229	74.5	85	73.1
25年3月期第3四半期	8,000	12.6	127	△56.1	131	△55.8	49	△86.8

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 98百万円 (90.2%) 25年3月期第3四半期 51百万円 (△86.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	9.85	—
25年3月期第3四半期	5.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	6,812		4,643			67.7
25年3月期	6,533		4,612			70.1

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 4,610百万円 25年3月期 4,581百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
26年3月期	—	0.00	—		
26年3月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	11,000 ～12,000	△0.4 ～8.7	350 ～450	△20.3 ～2.5	250 ～350	△29.8 ～△1.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	9,237,319 株	25年3月期	9,237,319 株
26年3月期3Q	579,018 株	25年3月期	508,044 株
26年3月期3Q	8,713,411 株	25年3月期3Q	8,832,653 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えするなかで、家計所得や投資が増加し、景気の回復基調が続くことが期待される状況でありました。

当業界におきましては、商談数の増加など、受注環境に上向き傾向が見えてきましたが、顧客の情報化投資、設備投資等に対しては慎重な動きが続き、厳しい状況下が続いております。

このような状況の中、当社グループは平成23年4月1日付の当社持株会社化および会社分割により、事業ごとの責任と権限の明確化、スピード経営・自主独立経営の徹底、各業種・業態に最適な経営体制の確立、変化に対応出来る柔軟な経営体制の確立を実現し、より強固な経営基盤の確立並びに成長促進を目指しております。

なお、当第3四半期連結累計期間における、当社グループの状況は、前年同四半期に比べ、売上は同水準で推移し、利益に関しては、前年同四半期のクレオマーケティング事業において不採算プロジェクトや製品維持メンテナンス費用が発生しましたが、当第3四半期連結累計期間では損失の縮小ができた結果、利益が増加しております。

以上の結果、売上高は、80億57百万円（前年同四半期比0.7%増）、営業利益は、2億25百万円（前年同四半期比76.8%増）、経常利益は、2億29百万円（前年同四半期比74.5%増）、四半期純利益は、85百万円（前年同四半期比73.1%増）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

- ・クレオマーケティング事業（主たる事業：基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供）

売上は、「人事給与」「会計」を中心としたトータルICTソリューションZ e e M製品を中心に展開をした結果、前年同四半期より微減となりました。利益に関しては、前年同四半期では不採算プロジェクトや製品維持メンテナンス費用が発生いたしましたが、当第3四半期連結累計期間では損失の縮小ができたため、大幅な改善となりました。

その結果、売上高は16億79百万円（前年同四半期比6.3%減）、営業損失37百万円（前年同四半期は営業損失2億4百万円）となりました。

- ・クレオソリューション事業（主たる事業：システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発）

既存顧客との関係強化ならびに不採算防止プロジェクトの徹底を継続した結果、売上は前年同四半期とほぼ同等に推移しました。利益に関しては、経費削減の効果により、前年同四半期より増加しております。

その結果、売上高は23億13百万円（前年同四半期比0.3%減）、営業利益1億30百万円（前年同四半期比32.6%増）となりました。

- ・筆まめ事業（主たる事業：はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売）

売上・利益に関しては、平成25年9月に発売した毛筆ソフト「筆まめVer. 24」製品の市場縮小の影響等により、前年同四半期を下回りました。

その結果、売上高は10億26百万円（前年同四半期比3.5%減）、営業利益1億51百万円（前年同四半期比17.7%減）となりました。

- ・クレオネットワークス事業（主たる事業：ICT基盤サービスプラットフォームとメディアプラットフォームの提供）

主力製品であるクラウド型・ビジネスプロセス管理プラットフォーム「SmartStage BizPlatform」を中心に堅調に進んだ結果、前年同四半期に比べ売上は増加いたしましたが、利益は販売体制強化による費用増に伴い、前年同四半期を下回りました。

その結果、売上高は4億37百万円（前年同四半期比8.2%増）、営業損失40百万円（前年同四半期は営業利益16百万円）となりました。

- ・クリエイトラボ事業（主たる事業：ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス）

厳しい市況環境に適応するべく、新規プロジェクトへの先行投資など商談数増加に努めた結果、前年同四半期に比べ売上、利益共に増加となりました。

その結果、売上高は25億99百万円（前年同四半期比7.5%増）、営業利益77百万円（前年同四半期比12.7%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、43百万円の増加となりました。

これは主として仕掛品の増加によるものです。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、2億34百万円の増加となりました。

これは主としてソフトウェア、投資有価証券の増加によるものです。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、2億39百万円の増加となりました。

これは主として返品調整引当金の増加によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、30百万円の増加となりました。

これは主として四半期純利益の計上によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しましては、平成25年5月14日付け「平成25年3月期決算短信」において公表いたしました数値より変更はございません。

連結業績予想には、リスクや不確実性を含んでおり、そのための様々な要因の変更により、大きく異なる結果になる可能性があります。通期の連結会計期間においては、以下のようなリスクがあります。

(1) クレオマーケティング事業については、新規顧客の獲得の遅れが生じた場合、あるいは通期の連結会計期間に予定しているライセンス販売等の検収が来期にずれ込む場合には、予想と実績が大きく乖離する可能性があります。

(2) クレオソリューション事業については、事業の性質上通期の連結会計期間末に検収が集中しており、検収の進捗により売上計上時期が来期にずれこむ可能性があります。また、今後の開発状況によっては不採算プロジェクトが顕在化する可能性があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当社の連結子会社である株式会社クレオソリューションは、平成25年10月2日に株式会社クレオサンライズを新設し、連結子会社としております。株式会社クレオサンライズは、熟練者がいままで培ってきた知識と経験を活かし、ノウハウを強みとしたサービス展開、並びに新たなサービスの創出を目指すべく「何歳になっても生き活きと誇りと生きがいをもって働く場の提供」を目的に設立しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,923	2,941
受取手形及び売掛金	1,993	1,801
商品及び製品	19	18
仕掛品	234	583
その他	318	188
流動資産合計	5,489	5,533
固定資産		
有形固定資産	171	187
無形固定資産		
のれん	5	3
その他	646	791
無形固定資産合計	652	794
投資その他の資産	220	296
固定資産合計	1,044	1,279
資産合計	6,533	6,812
負債の部		
流動負債		
買掛金	448	412
未払法人税等	28	48
賞与引当金	341	240
返品調整引当金	60	215
資産除去債務	4	—
その他	937	1,145
流動負債合計	1,822	2,062
固定負債		
未払役員退職慰労金	29	28
資産除去債務	49	55
その他	20	23
固定負債合計	99	107
負債合計	1,921	2,169
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	743	743
利益剰余金	843	885
自己株式	△154	△177
株主資本合計	4,581	4,600
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	9
その他の包括利益累計額合計	0	9
少数株主持分	30	33
純資産合計	4,612	4,643
負債純資産合計	6,533	6,812

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	8,000	8,057
売上原価	6,184	6,102
売上総利益	1,816	1,954
販売費及び一般管理費	1,688	1,729
営業利益	127	225
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
受取保険金	2	1
その他	3	1
営業外収益合計	6	4
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	2	0
営業外費用合計	2	0
経常利益	131	229
特別損失		
和解金	—	55
その他	—	1
特別損失合計	—	56
税金等調整前四半期純利益	131	172
法人税、住民税及び事業税	66	76
法人税等調整額	12	7
法人税等合計	79	83
少数株主損益調整前四半期純利益	51	88
少数株主利益	2	3
四半期純利益	49	85

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	51	88
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	0	9
その他の包括利益合計	0	9
四半期包括利益	51	98
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	49	95
少数株主に係る四半期包括利益	2	3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年10月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定に読み替えて適用される、同法第156条の規定に基づく自己株式の取得に係る事項について決議し、平成25年11月1日付で東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（T o S T N e T - 3）における取引により、普通株式70,000株、取得総額23百万円の自己株式を取得しております。

この自己株式の取得等により、当第3四半期連結会計期間末における自己株式が177百万円になりました。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	1,792	2,320	1,063	404	2,419	8,000
セグメント間の内部売上高 又は振替高	101	18	0	129	402	652
計	1,893	2,338	1,063	534	2,822	8,653
セグメント利益又は損失(△)	△204	98	183	16	68	162

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	162
セグメント間取引消去	△71
全社費用及び利益（注）	36
四半期連結損益計算書の営業利益	127

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料収入等であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	1,679	2,313	1,026	437	2,599	8,057
セグメント間の内部売上高 又は振替高	128	10	0	104	377	620
計	1,807	2,323	1,027	542	2,977	8,678
セグメント利益又は損失(△)	△37	130	151	△40	77	281

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	281
セグメント間取引消去	△98
全社費用及び利益（注）	43
四半期連結損益計算書の営業利益	225

（注）全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。